

様式 1 （主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	5-(1)-ア	地域を知り、学びを深める環境づくり	施 策	①多様な学習機会の創出及び提供
			施策の小項目名	○多様な学習活動の充実
主な取組	青少年交流体験事業		対応する成果指標	公民館等の利用者延べ人数
施策の方向	・県民が地域の自然環境、歴史、文化等に親しみ、本県の魅力に対する認識を深め、その地域における課題等について主体的に学べるよう支援するため、学校・地域における自然体験学習や読書活動等の多様な学習活動の充実、社会教育指導者等の資質向上等に取り組めます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組（アクティビティ）	実施主体	年度別計画		
		活動指標（アウトプット）		
		R4	R5	R6
県内の青少年を他県に派遣し、交歓交流・学習の機会を設けることにより、青少年の健全育成を図る。また、他県の青少年と県内小中学生との交流の機会を設け、児童相互の友情を育む。	県関係団体	青少年交流体験事業の実施		
		派遣児童・生徒数（累計）		
		160人	160人（320人）	160人（480人）
担当部課【連絡先】	こども未来部こども若者政策課 【 098-866-2100 】		関連URL	—

様式 1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況						(単位：千円)		
予算事業名 青少年交流体験事業						予算事業名 青少年交流体験事業		
主な財源		実施方法		R4年度 決算額	R5年度 決算見込額	R6年度		
県単等		補助		3,248	7,845	主な財源		実施方法 当初予算額
県単等		補助		3,248	7,845	県単等		補助 7,518
令和5年度活動内容						令和6年度活動計画		
令和5年7月に九州へ小中高生を180人、12月に兵庫県へ小中学生90人を派遣し、交歓交流・学習の機会を設ける。						令和6年7月に九州へ小中高生を160人、12月に兵庫県へ小中学生90人を派遣し、交歓交流・学習の機会を設ける。		

活動指標名		派遣児童・生徒数（累計）		R5年度			進捗状況	活動概要
実績値	R3年度	R4年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	35人	38人	234人	160人(320人)	100.0%	順調	令和5年7月に九州へ小中高生を179人、12月に兵庫県へ小中学生55人を派遣し、交歓交流・学習の機会を設けた。	

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

160人の児童の派遣を予定していたが、予定を大幅に上回る234人を派遣し、児童生徒の交歓交流・学習の機会を設けることができた。

(2) これまでの改善案の反映状況	
令和5年度の取組改善案	反映状況
○・新型コロナウイルス感染症は5類に移行したが、引き続き、交流先も含め流行状況を注視し、事業実施の可否及びその実施方法を検討する。 ○・県の広報誌等を活用するなど、引き続き周知広報に取り組み、事業の認知度向上を図る。	○・新型コロナウイルス感染症に限らず、派遣期間中の感染症蔓延防止のための対策については、派遣される児童生徒及び交流先も含め引き続き検討した上で、事業を実施していく必要がある。 ○・コロナ禍以前の規模で事業実施が求められているため、引き続き、周知広報には取り組んでいく必要がある。

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制 (内部要因)	・ 参加する児童生徒の体調不良を誘発するような強行プログラムとならないよう、実施内容は事前に十分検討する。	④ 創意工夫による取組の改善 (合理化・効率化)	・ 事業実施後、早急に改善点をまとめ、次年度内容に反映させる。
① 県の制度、執行体制 (内部要因)	・ 決定した事業の実施方法について、早期に周知し、幅広い年齢層の児童生徒に研修を知ってもらう必要がある。	④ 創意工夫による取組の改善 (合理化・効率化)	・ 県広報誌等以外で、実施主体側のSNS広報等も活用し、事業の認知度向上を図る。